

新住協全国総会レポート

武部建設株式会社・武部英治

5月17日・中部国際空港から岐阜支部のある恵那市キーポイント・金子邸見学して、中山道馬籠宿を体験していくコースで、松本に入る。金子邸は2回目であったが、新旧住宅の対比があらためて印象深かった。

中山道馬籠宿は、当時の様子が彷彿としてすばらしかった。社会資本の充実によって、日本の歴史を簡単に垣間見ることが出来るようになったのは、とてもいい。時間がもっとほしかった。

前夜祭は、安曇野ワイナリーでとても多くの参加者で賑わっていた。

5月18日・午前中は見学会、本州と北海道での住宅における明らかな生活スタイルの違いを再認識。

午後は総会と鎌田先生の基調講演。どちらもQ1.0が主なテーマになっていて、新住協発祥の地北海道に再びスポットが当たってきていて、主導してきた当事者としては、うれしい。

総会後の懇親会で、恒例の次期総会開催地決定の話題になり、札幌と十勝での綱引きの後、十勝に決定をみた。北海道ブロックの一員として、来年の成功を期してがんばらねば、と思った。

5月19日・研修会でQ1.0プロジェクト経過報告を昨年を引き続き、発表する。札幌から、斉藤さんも断熱改修について発表する。

以上私なりに総括すれば、当面の流れは、地球環境と100年住宅。どちらも超寿命でエネルギーをいかに削減していくか。新築においては、Q1.0と汎用せいのあるデザイン。既存住宅においては、耐震改修も兼ねた断熱改修による延命省エネ化。ということになるのではないのでしょうか。

2006/6/6